

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 平成30年度 総括表

法人名	社会福祉法人 上田しいのみ会	代表者	理事長 村上 恒夫	法人・ 事業所 の特徴	「全ての人が自立した幸せな生活を送ることを願い、社会福祉事業を通じて、その実現を目指します」という法人理念のもと、ご利用者一人ひとりの「思い」や「願い」を大切に して、家族の「困った」にも応える介護を心掛けます。介護が必要になっても、住み慣れた 自宅や地域で、家族や親しい人達と安心して生活ができるように、訪問・通い・宿泊サ ービスを柔軟に使い、その人らしい「暮らし方」実現に努めます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 陽だまりの家	施設長 管理者	大橋 俊彦 龍野 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	4人	人	1人	1人	人	2人	1人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>不明な点を積極的に確認し、利用者の情報を全員が共有できるようにする。</li> <li>アンケートを行い、利用者の要望を介護や行事に反映する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の「したい」を聞き出し要望に応える姿勢で接することができ、職員で共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交代勤務で職員が毎日会えない事が理解できたが、利用者の情報を共有し介護に役立てる努力が見える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用者一人一人の思いを汲み取り、日々の介護に生かし、楽しく笑い声が聞かれる施設を目指す。</li> </ul>
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動や地域の集まりに交流室の利用などを呼びかけ、施設をもっと活用してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方に、交流室の利用を呼びかけたが、もっと広い場所や公民館を使っているとのこと。</li> <li>ボランティアさんは大勢お見えになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者が無断で入らないようにカギを掛けたらどうか。</li> <li>室内には季節や行事に合わせた展示や飾りがある。</li> <li>認知症の方も自由に歩き回ることができる。職員は大変だが、しっかり見守っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者にとり、施設が安全で落ち着ける場となるように努め、歌やレクで楽しみの時間を提供する。</li> <li>手作りの食事ですっかり口から摂取が続けられるように心掛ける。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設を多くの方に知って頂く為に積極的に地域の行事やイベントに関わりを持つようにする。</li> <li>包括支援センター、ヘルパーステーションなど身近な社会資源に問題や情報を伝え、互いに活用してゆく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川西小仲よし交流会、地域の文化祭、太鼓の発表会など利用者と一緒に参加した。</li> <li>地域の方から野菜などの差し入れを頂いた。</li> <li>包括、ヘルパー利用の在宅の方を緊急短期利用で支えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅で高齢者がいない家庭の方は施設にあまり関心がなく、施設の種類もわからない。</li> <li>相談は利用者の家族からあり福祉用具や宿泊対応で介護者の支援ができています。</li> <li>支援段階の方や認知症、精神的問題を抱える方が増加傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事に利用者と共に積極的に参加する。</li> <li>包括支援センター、ヘルパー、居宅事業者から困っている方の情報を受け、多様なサービスで支援できるように努める。</li> <li>短期利用サービスが利用できるようになったので、上田市や包括支援センターからの緊急な要請に可能な限り対応する。</li> </ul>

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅サービスの利用が減少し、入所希望が増えている状況だが、ご家族の期待に応え、在宅での生活を支えられる信頼される施設を目指したい。</li> </ul>	
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進委員の皆様のご意見をお聞きして、施設の運営に反映させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議で、地域で困っている方や地域での課題を話してもらい機会を多く持つようにする。</li> <li>・「通い」「訪問」「泊まり」など多様なニーズに対応するサービスを提供することで、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援する</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川の増水に対する災害避難訓練と、火災通報・避難訓練をそれぞれ行い、日頃から職員の意識を高める。(早めの判断で、早めの避難)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災だけでなく、洪水に対する非難訓練で職員の防災意識は高まってきた。</li> <li>・川西地区の防災訓練は、広い範囲での訓練で、事業所としては参加しなかった。</li> <li>・災害の中で地震については、まだ訓練できていない。想定が難しい。自身のような大規模の災害時は、法人の協力で対応したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し前までは河川の氾濫で避難ということは想定されていなかった。東北の施設で事故があったからだと思う。</li> <li>・浦野川が増水氾濫する可能性はある。⇒危険箇所という事を市役所にも理解いただき、緊急連絡などお願いした。</li> <li>・在宅利用者は家族と連絡をとり、まず家まで送り届けることが一番。帰れない利用者は室賀の里と協力し避難を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防避難訓練と、同時に河川氾濫に対する防災避難訓練を行い、職員の防災意識を高める。</li> <li>・AEDの設置事業として、職員は救急救命法の講習を行い、施設ばかりでなく地域の事故にも備え貢献できるよう努める。</li> </ul>